

# 令和8年度採用

## 山梨県公立学校教員選考検査

### 高等学校・保健体育 問題

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

#### 注 意

- 1 この問題は8問4ページで、時間は60分です。
- 2 解答用紙は、別紙で配付します。「始め」の合図で始めてください。
- 3 解答は、それぞれの問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 「やめ」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 5 解答用紙を持ち出してはいけません。

令和 8 年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

**高等学校 保健体育**

**1** 次の（1）, （2）の問い合わせに答えよ。

- (1) 次の文章の（ア）～（エ）に当てはまる語句を記せ。なお、同じ記号には同じ語句が入るものとする。

腸管出血性大腸菌感染症やエボラ出血熱のように、最近新たに認知され、問題となっている感染症を（ア）という。また、結核やマラリアなどのように、その発生が一時期は減少し、近年、再び増加し問題となっている感染症を（イ）という。（イ）が問題となる背景には、（ウ）率の低下、感染の機会の減少や加齢による（エ）の低下などが考えられる。また、A治療に使用する医薬品に対して抵抗力をもつ菌やウイルスの出現なども問題の要因の1つである。

- (2) 下線部 A の菌やウイルスのことを何というか答えよ。

**2** 次の（1）～（5）の問い合わせに答えよ。

- (1) 水泳で、両腕は水中を同時に後方へ運び、水面の上を同時に前方に運ばなければならず、足の上下動作は交互に動かしてはならない泳法を何というか、記せ。  
(2) テニスやソフトテニスで、相手から打たれたボールを主にフォアハンドやバックハンドによりノーバウンドで返球する技術を何というか、記せ。  
(3) 剣道で、あらゆる方向へすばやく移動する場合や打突の場合に、攻防の中でもっとも多く使われる足さばきを何というか、記せ。  
(4) バレーボールで、相手ブロッカーにジャンプのゆとりを与えないように、セッターの低く速いトスによってすばやく打つ攻撃を何というか、記せ。  
(5) 陸上競技の三段跳びで左足で踏み切る場合、2歩目、3歩目の踏み切り足はどちらの足になるか、記せ。

**3** 次の（1）～（2）の問い合わせに答えよ。

- (1) サッカーのマンツーマン・ディフェンスについて、説明せよ。  
(2) バスケットボールで、攻撃の原則におけるシュートセレクションについて、説明せよ。

- 4 次の文章は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）「第2章 第6節 第1款 目標」である。①～⑨に当てはまる語句を、下のア～タからそれぞれ一つ選び、記号で記せ。なお、同じ番号には同じ記号が入るものとする。

体育や保健の（①）・考え方を働きかせ、（②）を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を（③）として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かな（④）を継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の（⑤）に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての（⑥）や社会の（②）を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し（⑦）するとともに、他者に（⑧）を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に（⑨）とともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

ア 個人	イ 伝える力	ウ 親しむ	エ 自他
オ 見方	カ 使命	キ 判断	ク 知識
ケ 一体	コ ライフワーク	サ 打ち込む	シ 特性
ス 表現	セ 課題	ソ スポーツライフ	タ 同類

- 5 次の文章は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編「第1部 第3章 第1節3 体育 及び 保健（1）中学校との関連」の一部である。（ア）～（エ）に当てはまる語句を記せ。

(5) 義務教育段階との接続を重視し、中学校保健体育科との関連に留意すること。

「体育」では、中学校第3学年からは、生徒が（ア）できることとしているため、高等学校入学年次以降は、領域の（イ）に違いが生じる場合も考えられる。このため、入学年次においては、高等学校段階の学習に円滑に接続できるよう中学校第3学年と同様の「内容の取扱い」を示し、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを重視している。

(中略)

「保健」では、小学校、中学校の内容を踏まえた（ウ）ができるようになる内容を明確化しており、義務教育段階の学習内容が定着していることが前提として必要となるものであることから、生徒の実態等を踏まえ、関連する中学校の内容を適宜取り入れ、（エ）した上で指導することが考えられる。

**6**

次の文章は、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 保健体育編 体育編「第 1 部 第 2 章 第 2 節「保健」 3 内容」の一部である。下の（1）～（3）の問い合わせに答えよ。

（1）応急手当

⑦ 応急手当の意義

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を（①）したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う（②）が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。

① 日常的な応急手当

日常生活で起こる傷害や、A 熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。

⑦ 心肺蘇生法

心肺停止状態においては、急速に（③）の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、（④）、B 胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにする。

その際、（⑤）で対処することがより有効であること、胸骨圧迫を優先することについて触れるようにする。

なお、指導に当たっては、呼吸器系及び（⑥）器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。

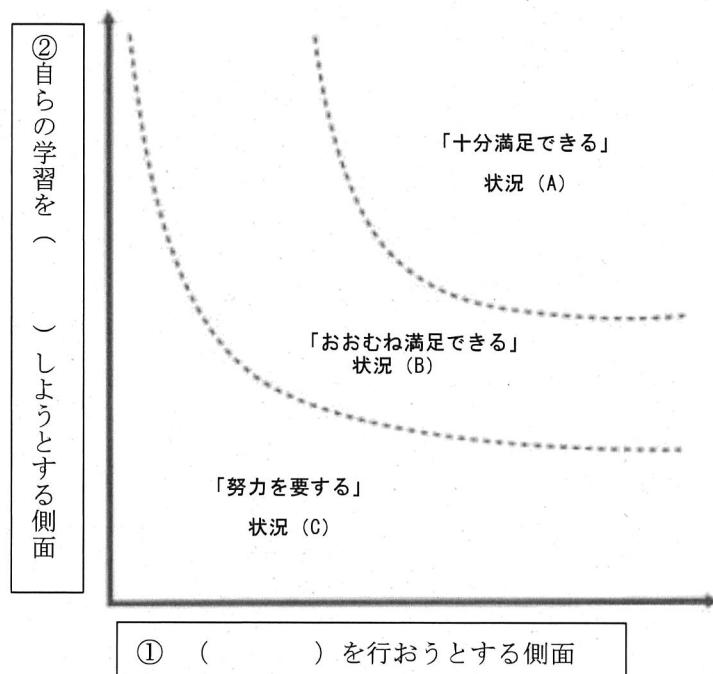
また、「体育」における（⑦）などとの関連を図り、指導の効果を高めるよう配慮するものとする。

- （1）①～⑦に当てはまる語句を記せ。
- （2）下線部 A について、熱中症予防運動指針で、「運動は原則中止」とされる暑さ指数（WBGT）は何度以上か数字で記せ。
- （3）下線部 B について、次の文のア、イに当てはまる語句または数字を記せ。

胸骨圧迫は傷病者の胸が約 5 cm 沈み込むように、（ア）分間に 100～120 回のテンポで、「強く」「速く」「（イ）」繰り返す。

7

次の図は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（高等学校）（文部科学省国立教育政策研究所）に記載されている「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージである。下の（1）、（2）の問い合わせに答えよ。



- (1) ①, ②の空欄に当てはまる語句を記せ。
- (2) 保健体育の授業における「主体的に学習に取り組む態度」について、具体的な評価の方法を記せ。

8

次の（1）～（4）について、説明せよ。

- (1) インフォームド・コンセント
- (2) プラトー
- (3) アナフィラキシー
- (4) ネグレクト

受検番号		氏名		※	
------	--	----	--	---	--

-----切り取らないこと-----

※	
---	--

令和8年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

**高等学校 保健体育 解答例**

1 11	(1)	ア	新興感染症	イ	再興感染症	ウ	予防接種	エ	免疫	各2点					
	(2)	薬剤耐性菌・薬剤耐性ウイルス													
2 10	(1)	バタフライ			(2)	ボレー									
	(3)	送り足			(4)	クイック(速攻)									
3 6	(5)	2歩目 左			3歩目 右										
	(1)	各自がマーカーを決めて、相手がどこに行こうと忠実についてまわる1対1を基本とした守り方。													
4 18	(2)	選手がどのような状況で、どんな種類のシュートを選ぶかという判断をすること。ディフェンスの状況やゴールまでの距離などを総合的に判断する。													
	(1)	オ		(2)	セ		(3)	ケ							
(4)	(4)	ソ		(5)	シ		(6)	エ							
	(7)	キ		(8)	イ		(9)	ウ							

裏面に続く

ア、ウ各3点  
イ、エ各2点

高・保健体育2

5	ア	領域を選択して履修			イ	学習経験	
10	ウ	系統性のある指導			エ	復習	
6	(1)	①	緩和	②	態度	③	回復
		④	人工呼吸	⑤	複数人数	⑥	循環
		⑦	水泳				各2点
20	(2)	3 1	度以上	(3)	ア イ	1 絶え間なく	
7	(1)	①	粘り強い取組	②	調整		
9	(2)	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等の状況 など					
8	(1)	医療関係者が患者に対して十分な説明を行い、患者がそれを正しく理解した上で、治療の方針などに明確に同意を示して初めて、医療関係者は患者に治療などを行うことができる、という考え方。					
	(2)	練習を続け技能が向上し、次の段階に進むまでに一時的に伸び悩んでいる状態、時期。					
	(3)	アレルゲン等の侵入により、複数臓器に全身性のアレルギー症状が起き、生命に危機を与える過敏反応、重篤な全身性の過敏反応。					
16	(4)	幼児・高齢者などの社会的弱者に対し、その保護・養育義務を果たさず放任すること。					